

はびきの市民大学情報誌

はびきの市民大学だより

はびきの市民大学だより12月号が休刊となりましたので、今月号は12月号で掲載予定だった学長コラムと今月号の2本掲載させていただきます。

学長コラム【第15回】&【第16回】



河内厚郎
(はびきの市民大学学長)

新型コロナウイルスの感染拡大で、各地の大学ではインターネットを介した遠隔講義を実施。そのキャンパスライフを関西大学の学生たちが五七五の川柳で表現したと新聞が報じている。これがなかなか面白い。

繋がらぬ ネット回線 人づきあい
タイピング 上達したが 口下手に



また、初日から両横綱が休業し、荒れる場所が予想された大相撲秋場所。出色のNHK 大相撲中継となったのが、秋分の日、中入り後。連休最終日となったこの日は、放送の随所でアナウンサーが正岡子規の俳句を紹介しながらの進行となった。これも好評であった。

短詩形文学のように、日本文化の基層に生きてきたものは、時代の節目ごとに、したたかな生命力の伝統を発揮するらしい。

日本語を学ぶ外国人たちも、俳句や川柳で日本語のカタチに馴染むようだ。新しい日本語の語感が育ってきているのかもしれない。



坂田藤十郎が亡くなった。

藤十郎を名乗ったのは晩年近く、その前は中村鴈治郎、その前の中村扇雀の時代が長かった。

9歳のとき道頓堀角座で初舞台。演劇評論家の武智鉄二が率いる、いわゆる「武智歌舞伎」で頭角を現し、21歳のとき『曾根崎心中』のお初を演じ、爆発的な人気を得た。その後、松竹から宝塚映画を経て東宝に移り、梅田コマ劇場のコマ歌舞伎などに出演。松竹に復帰後は上方歌舞伎を代表する女形として存在感を發揮した。

50歳のとき、近松門左衛門作品の原典に基づいた上演をめざし、【近松座】を結成。その集大成として、近松の芝居と切っても切れぬ、坂田藤十郎の名跡を四代目として継承したが、実は24歳で東京へ居を移している。昭和30年代、関西歌舞伎は崩壊の危機を迎え、俳優たちも次々と東京の演劇界に呑み込まれていく。その走りが藤十郎だった。

自分の芸において伝統を継承すればよいと考えていたのだろう。関西人として寂しい気もするが、そういう意味ではドライで利口な人だったということになる。

私は、藤十郎の舞台をNHKがテレビ中継したとき、ナレーションを担当したのが貴重な思い出となっている。

四天王寺大学より、インターンシップ生として参りました。今村と申します。

今回の記事の作成を担当させていただきました。

◎講座対応を体験して

はびきの市民大学講座「中百舌鳥・古市古墳群をより深く知るための世界遺産講座Ⅹ」を体験させていただきました。講義内容は、古墳とピラミッドの類似点が多いことやピラミッド造営の歴史など、私でも良く分かる内容でとても面白く、受講生の方も真摯に受講されていました。最後の質問コーナーでは講義時間を超えてしまうほどのたくさんの質問が上がりました。



私はこの講座の対応補助として検温と講義室のセッティングをさせていただきました。検温をしている際、検温器を落としてしまい、中の電池が出てしまうアクシデントがありました。とても慌ててしまいましたがボランティアスタッフの方が助けてくださり、上手く対応することができました。また講義室のセッティングをしている際、受講生の方に映像が見やすいようにと、プロジェクターの画面をなるべく大きくしながらも、ピントをしっかりと合わせるなどのご指導をしていただき、受講生に質の高い講義を受けていただくには先生の話術や授業の工夫だけでなく、セッティングなどの環境作りも大切だと感じました。



◎現地講義「古市古墳群巡り」の対応補助をさせていただきます

11月7日に行われた現地講義「古市古墳群巡り」の対応補助をさせていただきました。当日は天気が崩れる心配がありましたが、雨は降ることなく、たくさんの受講生の方が現地講義に参加してくださいました。講義の内容は、藤井寺駅から応神天皇陵古墳を目指し、立ち寄った古墳やお寺の解説を先生にいただきました。特に驚かされた内容は、応神天皇陵古墳が、大きさは日本2位で仁徳天皇陵古墳よりも小さいですが、体積は仁徳天皇陵古墳を超え世界1位ということ、そして応神天皇陵古墳の近くに作られた大鳥塚古墳は、戦時中の道具にされ弾薬庫や兵士の休憩室が古墳内に建てられたことです。

講義対応補助として、昨今のコロナ対策のため受講生同士の距離はなるべく保ちながらも大人数の受講生を引率するため、先頭、真ん中、後列にボランティアスタッフと職員を配置し、それぞれがトランシーバーを持つことで、受講生がどこにいても先生の話聞くことができる環境を作ることができました。また長距離の移動やアイセルシュラホールの館内見学等もありましたが、受講生に番号をつけた名札で人数を把握し、スムーズな引率を行うことができました。私自身観光の仕事に興味があり、将来観光ツアーなどを企画する際には今回の体験は非常に有用で、良い体験をすることができました。

【次ページへつづく】

◎インターンシップをさせていただいて

まず、私が学んだことはインターン生としての自覚の無さです。インターン初日に私は失敗をしてしまいました。しかし私のインターンシップを対応していただいた、はびきの市民大学の職員の方は私を突き放さずにインターンシップについてしっかりとご指導していただき、私は四天王寺大学のインターンシップ生としての自覚や準備ができていないことを痛感し、より一層インターンシップに力を入れることができました。

次にインターンシップ中一番面白かった業務は講座案作成です。業務内容は、子供向け講座の企画を考えチラシを作るという業務です。企画を考える上でまず悩んだことは、考えた講座に受講する価値があるか、というインターネットが普及している現在で工作の講座を企画してもYouTubeなどで簡単に視聴できるため、わざわざ講座に来る受講生の方はいないのご指導していただき、インターネットは便利ですが講座を企画するには大きな障害になることを知りました。また講義を行っていただくための講師を探す必要があることなど、様々な壁にぶつかり講座作成の困難さを思い知らされました。しかし講座案を考えている時はとても楽しく、もしかすれば私の考えた案が通るかもしれないことを伺った際は、とてもワクワクしていることを実感し、私は何かを考えて実現させることが好きだと知ることができました。

はびきの市民大学でのインターンシップは私にとって大きな学びがあっただけでなく、社会人として自覚、実力が足りてない事を改めて知ることができました。そして講座案作成の時に感じたワクワクを忘れず、今後の人生に生かして頑張っていきたいです。



1月の講座について

新型コロナウイルス感染再拡大により、1月も講座を休講にすることになりました。講座を楽しみにしていただいていた方にはご迷惑をお掛けし申し訳ございません。

2月以降の講座につきましては、開講を予定しておりますのでよろしくお願いたします。

最新のはびきの市民大学の情報はホームページでご確認いただくか、お電話(072-950-5503)でお問い合わせください。



はびきの市民大学

〒583-0854 大阪府羽曳野市軽里1丁目1番1号(LIC はびきの内)
【TEL】072-950-5503 / 【FAX】072-950-5650

受付 9時00分～17時30分(2階学習情報室 9時30分～16時30分) ※閉室は祝日・振替休日・年末年始
ご提出いただきました個人情報につきましては、羽曳野市個人情報保護条例(平成12年羽曳野市条例第43号)に基づき適切に管理いたします。
※障害への配慮が必要な場合は事前にご相談ください。
※表記されている内容については予告なく変更になる場合がございます。

はびきの市民大学

検索

